

宗蓮

日蓮宗奈良県布教師会 No.70

グリーンダウンプロジェクト

倉敷市 正福寺

菊岡 妙光

先日、ファーストファッションの店に行った。

低価格で手軽で流行を取り入れた洋服がずらりと並んでいる。その中には、これからの季節に重宝するダウンを使用した様々なデザイン、色の洋服も多く並んでいた。

三十年程前、羽毛製品は高級品、贅沢品のイメージが強かったが、今や羽毛を使用した衣料品や寝具等はお手頃な価格で手に入るようにな

った。羽毛は水鳥のもので、ダックはアヒル、ゲースはガチョウの羽根である。

寝具に軽くて暖かい羽毛布団を使用されている方も多いと思うが、羽毛布団一枚には約100〜150羽分、ダウンジャケットには約70羽分の羽根が使用されている。

以前、羽毛は食用の水鳥の副産物だった。しかし需要が年々伸び、副産物では間に合わなく

なった。今、世界の羽毛供給量は減少を続けている。その為、効率よく生産するために、生きている鳥から全身の羽根をむしり取り、羽根が生えそろうてきたら、再び採取。それを4〜5回繰り返すライブハンドピッキングという方法。ヨーロッパでは生きたままで羽根を抜くのは規制されているが、未だに行っているところもあるそうだ。この採取方法は、水鳥を苦しめる方法であるという。

今、羽毛に関わる企業や団体をはじめ、一般企業・地域社会、そして一人ひとりの理解と協力により、使用済みの羽毛製品を回収し、洗浄し、新毛よりもきれいな「再生羽毛」として生まれ変わらせるリサイクル羽毛流通システム「グリーンダウンプロジェクト」が始まっている。

暖かくて、軽くて、寒い冬にはダウンベスト

が必需品と楽観的に考えていた私は、ダウン製品の裏にある現状を知り、何も考えずに着用していたことを反省した。そして、使い古したダウン製品は捨ててしまい、新しいものを買いたい求めればいいという今までの安易な考え方を改めるきっかけとなった。

使い捨ての紙皿、使い捨てのライター、まだまだ着ることのできる洋服も捨てる、ペットも自分勝手に無責任な飼い主によって捨てられてしまう今の世の中である。

私達人間は自己中心的な考え方や見方で物事を判断し、自分の誤りを認めない。自分は何でもよくわかり、理解していると思っている。その上、貪り、瞋りの心が激しく、そして欲望の塊のような生き物である。自分の欲望を満たし、叶えるためにはあらゆる手段を使い全世界から

材料を手に入れようとする。そのような私達人間に必要なのは、妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八に説かれている「少欲知足^{しうよくちちく}」という教え。「少欲」とは世間の楽しみ、物質的な贅沢を求める欲が少ないこと。

「知足」とは、足るを知る、すなわち自分の境遇に不満を抱かずに感謝する気持ちを忘れないということ。法華經を心に信じ続け、読誦し、正しく考え、内容を深く理解し、修行をすれば、仏様とともに生きているという実感を得ることができ、そのような人は衣服や食べ物のような日常生活を送るための物に執着する必要がなく、気持ちも心も満たされ真の幸福を得ることができると説かれている。

ハーバード大学神学部世界宗教センター長のドナルド・スエアラ博士が「少欲知足が世界

を救うキーワードだ」とおっしゃっていたと身延山大学学長、浜島典彦先生の著書に書かれている。

私たちは、快適に穏やかに、楽に過ごす為に必要なものを簡単に手に入れることが出来る。しかし、その裏にはたくさんの生きとし生けるものの命や苦しみ、涙と汗が隠されていることに気づくことができる心づくりが必要である。その為に、お題目を唱える。そうすれば、「おかげさまで、私は今を生きさせていただいている」という、すべてのいのちに対しての感謝の気持ち^{きもち}が沸き起こる。その時、手を合わさずにはいられなくなるだろう。